



三年十月二十七日於黒田栢密院識長定

宗方小太郎氏清回談概要

早稲田大学図書館

文書27

D 44





明治三十一年十月廿七日午前十時宗方  
小太郎氏清國談ノ概要

現今支那一般ノ民心大ニ動カントスルノ兆アルヲ見  
ル或ハ概々ヲ飛スモノアリ其大要ハ愛親覺羅  
ヲ倒シ共和政體ヲ建テ張之洞ヲ仰ヒテ統領  
ト為シ康有為ヲ以テ副ト為シ百般ノ計畫廣  
東湖南ヲ以テ中心ト為サントスルニ在リ就中湖  
南ノ志氣ハ大ニ振フモノノ如シ

伊藤侯ノ渡清ハ一般歡迎ノ模様ニテ現ニ  
張之洞ハ人ヲ上海ニ差シ之レヲ出迎ヘ侯ニ就



キテ諸般ノ教ヲ請ヒテ欲シ其未着ヲ渴望  
セリ張之洞ハ元來非常ナル日本嫌ヒテ甚  
薄ヨリ日本ニ讓與スルヲ聞クヤ大ニ之レニ反對シテ  
曰ク是非之レヲ割讓セザルヲ得サルナラハ寧ロ  
英國ナリ其他ノ外國一之レヲ與フルトモ決シテ  
日本ニ與フヘカラスト迄ニ主張シタリ然ルニ  
其後獨ハ膠州灣露ハ旅順口英ハ威海衛  
佛ハ廣州ヲ占領スルニ及テ始テ歐洲各國ノ  
野心アル所ヲ察知シタリト見エ翻然其意見  
ヲ一變シテ日本ニ依頼スルノ念ヲ生ジ今後ハ

日本ト親交結托シ國政改革ノ模範モ亦之  
レニ取ルノ決心ヲナセリ現ニ張ニ聘セラレ居ル本  
邦人数名アリ猶ホ外ニ三十名ヲ備聘スルノ  
計畫ナリシカ彼ノ改變ノ為ナニ妨ケラレタリ然  
レトモ差向キ十名程ハ是非共備フ苦ナリト  
聞ク免ニ角本邦人ノ彼ノ地ニ手ヲ著ケルノ  
道ハ大ニ開ケ行クナリ  
張蔭桓等ノ改革意見ハ國政ノ模範ヲ日  
本ニ取り日清兩國相結ンテ之レヲ行フノ計  
畫ナリキ又張之洞ハ日英ニ結ビ其助力ニ依リ



露ノ南進ヲ防カントスルニ在リ

李鴻章ハ張之洞ト不和ナリ日清戦争以  
前ニテハ普通ノ交際ヲ為シタリシカ其後甚  
ク不和ト為リ今日ニ至ラハ仇敵相容レサルノ姿  
トナレリ蓋シ兩人ノ性行各相異ナル所多キカ  
為ナリ張ハ事ヲ為スニ先ツ計畫ヲ立テ手  
改方法ノ堅固ナルヲ尚ヒ外國人ニ依ル風  
ヲクシテ自尊ノ意多シ平素節儉ヲ守ルモ  
常ニ負乏ナリ例ヘハ大晦日夫人ノ衣服ヲ  
質屋ニ遣ルコトアリト云フ而シテ李ハ金ク之レ

反對ノ性行アリ張ニ取テ最モ困難ニシテ大ニ  
憂トスル所ハ其部下ニ手足トナルヘキ人物ナ  
キコト是レナリ故ニ張ハ種々ノ學校ヲ設立シ  
カヲ教育ニ用ユルモノ多シ小中學校ニ至ル  
迄日本人ヲ傭フテ之カ教師ニ充ツル積ナリ  
今回北京ノ改革ニ付テハ張之洞ハ與リ知ラス  
康有為トハ元ト親近ノ間柄ナリシモ昨今ハ  
大ニ離レタルノ姿ナリ康有為ハ清國ニ於テ  
共和政體ヲ建テントスルノ意見ヲ有セリ現今ノ  
改革ハ一旦愛親覺羅ヲ助ケ己レノ目的ヲ



達シタル上ハ更ニ之レヲ顛覆シ共和政體ヲ建  
テント欲スルモノナリ梁啓超モ亦同主義ノ人ナリ  
康ノ失敗シタルハ政府ト人民トノ結托力薄クシ  
テ其後援ヲ為スモノナキカ為ナリ清國南部一  
般ノ人心ハ張之洞ヲ推戴シ之ニ賴テ事ヲ為サ  
ントスルノ希望アルモノノ如シ

李鴻章ノ官ヲ免セラレタルハ康有為ノ計畫一  
ニ出ツ李ノ勢力ハ今日已ニ地ニ落キタリ假令  
復職スルコトアルモ到底其勢力ヲ回復スルコト  
能ハサルヘシ而シテ李ノ勢力ヲ失ヒシ所以ハ其

其近因トシテハ日清講話ニ在リト至モ十年前  
ヨリ已ニ人望ヲ失ヘリ李ノ行ツ所最初ハ高尚  
ニ過キテ民度ニ適セサルカ為ニ李ヲ以テ奇ヲ好  
ムモノトシ或ハ賣國ノ臣トシテ權々攻撃シタリ  
シモ人心漸ク發達シテ斯ル攻撃ハ自ラ止ミタリ  
然レモ彼ハ財ヲ好ミ專ラ同郷人ヲ用ヒ小人  
ヲ信ジ其為ス所公明正大ナラス斯ノ如ク種々  
ノ欠點多キ人物ニシテ已ニ人望ヲ失ヒ到底  
清國ノ為ニ為スコトアル人ニ非ラサルコト知ル可キ

ナリ



黃遵憲ハ張蔭桓ノ推舉シタル人ナリ世人ハ  
之ヲ評シテ小人ナリ盜人ナリト謂ヒ評判ノ真シ  
カラザル人ナリ黃ノ上海ニ於テ放免セラレタルハ  
伊藤侯ノ力ナルヘシ

今回ノ北京政變ハ滿漢人ノ衝突ナリ急進  
漸進兩派ノ衝突ナリ急進派ハ世ノ大勢力ニ  
從テ進ムモノナレハ漸進派ハ到底之レニ勝ツコト  
能ハサルヘクシテ滿人ハ多數ノ漢人ニ壓倒セラ  
ルコトヲ免カレサルナラン

今後東洋問題ヲ料理スルニ當テ露佛互ニ

結托スルノ必要ハ益ニ多キヲ加一兩國ノ同盟  
ハ愈々固キ至リ本邦ニ取ツテハ甚ダ困難ヲ  
増ス可キナリ而シテ清國ノ為ニ最モ悲ル所ハ  
各國カ互ニ利益線ヲ張リ鐵道礦山開  
河上ノ實權ヲ得之レニ依テ清國ノ膏血ヲ  
吸收シ遂ニ其命脈ヲ絶ツニ至ラントスルニ在リ  
英國ノ勢力ハ五十年以來養成シタルモノシテ  
依然トシテ他國ヨリ強大ナルヲ以テ多數ノ人  
民ハ英ニ賴ツテ事ヲ為スノ意アルモノナリ張蔭  
桓康有為ハ勿論張之洞モ亦然ラサルハナシ



民心愛親 覽羅ヲ離レテ益ニ冷淡ト為リ其  
威信已ニ地ニ落ツルノ今日ニ在テハ真ニ其末  
運ニ瀕スルモノナリ而レテ之レニ代ルモノアリヤト問  
ヘハ未タ之レアルヲ知ラサルナリ或ハ張之洞ヲ以テ  
之レニ擬スル者ナキニアラスト雖モ彼ハ揚子江以  
南ヲ舉テ之レニ當ルノ決心ナキカ如シ清國ノ歴  
史上ヨリ觀察スルニ革命ノ時ニハ必ス各省各郷  
ニ群雄蜂起スルコトアルヘシ此時ニ當リ露ハ北ヨ  
リ佛ハ南ヨリ英ハ東ヨリ侵入スヘシ若シ又外  
國カ自ラ進テ内治ニ干渉スルコトアラハ之レニ

應シテ蜂起スルモノアルヘシ何レニシテモ内憂外  
患併セ到ルヘキハ到底免ルニ能ハサルノ結果  
ナリ南方人ノ意見ニ依レハ事アルトキハ海岸ハ  
悉ク外國人ノ有ニ歸シ漢人ハ交通ノ便ヲ失  
フモノニシテ此場合ニ臨ミテハ國ヲ政人ニ與ヘシ  
ヨリハ寧ロ日本人ニ與フルニ如カス何トナレハ日  
本ニ國ヲ與ヘハ其占領地ノ近傍ヲ根據トシ  
國ヲ建ツルノ便宜ヲ得レハナリ斯ル民情ナレハ  
日本人カ國土ヲ占領スルハ却テ歡迎スル所ナ  
ルヘシ是レ南方人一般ノ意向ニシテ彼等ハ到



底全國ヲ統一テ一手ニ統一スルコト能ハサルヲ知  
レリ

目下本邦ノ對清策ニ付キ最モ必要トスヘキ  
問題ハ愛親覺羅ヲ助クルヤ否若シ之レヲ  
救フコト能ハサルモノトセハ如何ナル手段方法ヲ  
以テ之レニ臨ムヤ否ヲ決スルニ在リトス之ヲ助クルニ  
ハ日英米三國相合スルニ非サレハ到底爲レ能  
ハサル所ナル可シ何トナレハ愛親覺羅ハ自ラス  
ルコト能ハサルヲ以テ外國ノ助力ニ依ル外ナシ  
三國合同行ハレザルモノトセハ如何ナル手段

ヲ執ルヤト云ヘハ先ツ無事ノ日ニ在テハ出来  
得ル限り開導誘掖助力ノ態度ヲ取ルヘシ  
若シ各國力進シテ分割ニ着手スルノ情勢  
現ハルトキハ瞬時モ猶豫ナリ他國ニ先ンシテ  
據ル可キノ一地ヲ占有セサルヘカラス有事ノ日  
ニ備フル爲ニ今日ヨリ之レカ計ヲ立テ據ル可  
キノ地ヲ調査撫定スルコト最モ必要ナリトス  
思フ湖南福建ノ如キハ最モ適當ノ地ナル  
ベシ又日本ヲ助ケ共ニ爲スルノ國ハ英ヲ  
除ク外他ニアラサルヘシ有事ノ日ニ臨ミ



露ハ必ス伊犁東三省迄ハ進テ其掌中ニ  
収ムヘント雖モ黃河以南ヲ取ルコトハ為サレ  
ヘシ其他ノ外國ハ必ス海岸近接ノ地ヲ占  
領シ深ク内地ニ入り兵備其他百般ノ設備  
ヲ為スコトヲ欲セサルノミナラス又實際為シ能  
ハサルモノアル可シ之ニ反シテ本邦人ハ同文同  
人種ニシテ内地人民ノ意向モ亦前述ノ如キ  
有様ナルヲ以テ深ク内地ニ入テ之ヲ治メントスル  
ニモ種々ノ便益アリテ決シテ治メ難キニ非サル  
ヘシ他日據ルヘキノ地步ヲ占ムル為メニ今ヨリ

其實權勢力ノ扶植ニ着手セサルヘカラス  
張蔭桓ハ李其他ノ同僚ヲ凌キテ改革ヲ  
試ミタレハ恨ヲ受ケテ失敗セリ劉坤一ハ此  
改革ニ就キ反對ノ意見ヲ有シ張之洞ト  
共同シテ抗議セント欲シ之ヲ張ニ謀リシカ  
張ハ之レニ應セズ是ニ於テ劉ハ獨リ之ヲ試  
ミタリ張ノ政治上ノ意見ニ付テハ多少疑惑  
スル所ナキヲ斷非ルヲ以テ其真意ヲ探ラント  
欲シ之ヲ張ノ親友劉坤一ニ謀リシニ問題  
ヲ設ケ之ヲ試ムルニ如カスト為シ劉坤一ハ一日



張ヲ訪ヒ謂テ曰ク愛親覺羅ハ到底助ク  
ルニ足ラサルモノニ非スヤ依テ別ニ國ヲ建テハ如  
何ト張ハ頗ル怒氣ヲ帶ヒ之ニ答テ曰ク今日ハ  
決シテ斯ルコトヲ為スノ時期ニ非ス宜シク必ス  
靜養スヘキノ時ナリ今後外國ハ種々ノ干  
渉ヲ為シ現政府ハ遂ニ困難ニ陥ルノ日アルヘ  
シト此言ニ依レハ張ハ或ハ他日揚子江以南  
ヲ舉テ進ムノ意ナキニモアラサルカ如シ

清國ヨリ日本政府ニ約束シタル福建省ノ  
不割讓ノ件ハ止タ口約ノミニシテ實證ナシ

故ニ確証ヲ領置スヘキノ必要アルハ勿論ノ事  
ニシテ英米諸國カ鐵道布設權ヲ得ルニ當リ  
我邦モ亦宜シク福建等ニ其權利ヲ確得セ  
サル可カラス日本人ニシテ之ヲ架設スルノ資本  
ナキトキハ支那人ノ資本ヲ利用シテ之ニ充ツル  
コトヲ得ヘシ又有為ノ人物ハ可成日本ニ依ラ  
シムル方策ヲ取ルノ必要アルヲ認メ專ラ此  
手段ヲ取リツキアルナリ又日本ハ南方人ニ可  
成保助ト便利トヲ與ヘザル可カラス何レニシテ  
モ目下我邦ノ清國ニ對スル方針ヲ一定ス



ルコト急務ナリ湖南福建等ノ省ヲ我利  
益線内ニ入レテ早ク之レニ着手スルノ必要ア  
ルヲ認ム

支那ノ将来ニ付テ之ヲ治クルノ方法トシテ或ハ  
之ヲ共和政體トシ或ハ各省ヲ独立シテ聯邦  
ト爲シ揚子江以南ヲ別テ四個ノ國ト爲ス  
ガ如キ説ヤリ從來支那ニハ紳士ナルモノアリ  
所謂地方ノ豪族ニシテ官民ノ間ニ立チ大ニ  
勢力アルモノニシテ縣令等モ此輩ノ歡心ヲ得  
ルニ非サレハ民治ヲ爲スコト能ハズ又此輩ノ勢力ニ

依テ自治制モ自ラ行ハルモノアリ政治ハ頗ル  
不整理ナルモ人民ノ資力ハ益ニ發達ヲ加ヘ  
殊ニ日清戦争後ハ政州ノ文物輸入ノ必要  
ヲ感シ鉄道電信ヲ嫌忌スルカ如キ念慮ハ  
大抵一掃セラレタルカ如シ



